

## 青島にビーチパークオープン!

7月4日、青島海水浴場の海開きに合わせて、飲食や買い物などが楽しめる「青島ビーチパーク」がオープンしました。ビーチパークでは、コンテナ5台を店舗として活用し、海辺で本を読める店やインドカレー店、東京(渋谷・広尾)で人気のカフェも登場。午後9時まで営業する店舗もあり、青島ビーチは例年と一味違う雰囲気の中、多くの人でにぎわいました。



## 仕事と家庭の両立を応援する「イクボス」になります!

7月6日、県知事や県内市町村長が「イクボス宣言」を行いました。これは、職員が男女を問わず、育児や介護に関する各種休暇制度の活用を進めるなど、職員の仕事と家庭の両立を応援する「イクボス」になることを宣言したものです。このほか、働く全ての人が仕事と家庭を両立し、心豊かに子育てなどができる社会の実現に向け、全力で取り組んでいくことも宣言しました。

# Miyazaki Topics



## 竹ノ内佑也選手へ「宮崎市栄誉賞・スポーツ特別賞」

7月13日、宮崎市高岡町出身の竹ノ内佑也選手に「宮崎市栄誉賞・スポーツ特別賞」を贈りました。竹ノ内選手は、全日本剣道選手権大会における史上最年少(21歳5か月)での優勝や、日本代表として出場した世界剣道選手権大会での団体戦優勝、個人戦準優勝と輝かしい成績を収めています。本市出身剣士の活躍に、多くの市民が感動し勇気をもらいました。今後のさらなる活躍を期待します。(P12で、詳しく紹介しています。)

## ブーゲンビリア「章太郎」を植樹しました

7月29日、橘橋北詰の岩切章太郎像前で、ブーゲンビリア記念植樹セレモニーが行われました。今年は、本県観光の父とたたえられる岩切章太郎氏没後30年の節目の年。岩切氏の観光への情熱を引き継ごうと、「章太郎」と名付けた新種のブーゲンビリアを植樹しました。空の玄関「宮崎ブーゲンビリア空港」の愛称とともに、宮崎を彩る花として、県内全域に「ブーゲンビリアの輪」が広まりつつあります。



↓ 昭和51年9月号が電子書籍で読める!



※QRコードの読み取りには、アプリ「QR・JANコード読み取りバーコードリーダー」を推奨しています。

今回の旅行先 昭和51年

「木花相撲踊り」って?

今月発掘するのは、昭和51年9月号の「木花相撲踊り」です。明治初期、木花地区に定住した力士が地域の女性に伝えたと言われており、現在も踊り継がれています。

記事では、女性の平均年齢が73.6歳、最年長(86歳)の長友さんが、「後継者不足」を心配しています。ちょうどその頃、唄い手として懇願されて活動を始めた、釘元さんに話を聞きました。

「ドスコイ、ドスコイ」「そろた、そろいました」など元気の良い相撲甚句や、三味線と太鼓のはやしに合わせて踊ります▶

あと20年は現役でがんばりたいです!



くもと あつこ 釘元 厚子さん (68歳)



長友さんに誘われて以来、唄い手として活動を続けて約40年になります。一番長く活動しているので、今では総括指導もしています。衣装のやりくりなど苦労はありますが、誇りを持って活動を続けた結果が実り、平成3年には、市の指定無形民俗文化財第1号になりました。約20年前からは、木花小学校などで、相撲踊りを教えています。運動会で子どもたちが踊るのもうれしいですね。

## 地名むかしむかし 2015 ④ 「にいなづめ」

昭和35年4月号から1年間連載されていた「地名むかしむかし」。市内のいろいろな地名の由来を当時の文章のままお届けします。

昭和35年8月号より



天正四年(1576)に建てられた供養碑。

新名爪(にいなづめ)は宮崎市の北の咽喉をなすところである。ここから道は二つにわかれ東に道をとれば広瀬をへて延岡に行く日向の大街道であり、西の道は佐土原を経て妻に至る街道である。反対に左右の両街道はここで合して宮崎に入るののである。南に蓮ヶ池の丘陵地帯が道を遮り、これを負うて北と東に水田地帯がひろがっている。ここが古くから開けた土地であることは兵地におびただしく残っている横穴古墳がこれを物語っている。「中略」

近世には佐土原島津氏の領地となったが、由緒の古い土地だけに古い時代の遺物が多い。新名爪という地名の爪はあて字で詰であるうが、新名は新しい開墾地という意味で、その行き詰まりということではないかと思われる。